

学習指導要領の理解と具現化 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」の実現を図り、子供に「生きる力」を育むことを目指す。

長崎県教育方針並びに長崎市教育方針に則り、特に長崎市第五次総合計画「まちづくりの方針」GI+BIの具現化を目指す

長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます

被爆の実相を継承します

G1-1 「確かな学力」の向上を図ります

G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります

B1-2 平和教育・学習の充実を図ります

G1-2 健やかな心と体を育成します

G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します

B1-3 多様な方法で継承の取組みを推進します

学校教育目標

目指す学校の姿

目指す子供の姿

(共生・平和希求)

いたわり はげます 平和な学校 ～「平和は城山から」～

学校の合言葉「Peace（ピース）飛び交う、楽しい学校をつくろう」

自律：みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるために、例示を基に考え、判断し、決定し、自ら行動する

対話：仲間と共に生きるために、仲間の考えのよさを認め、対話を通して仲間と納得解を出す

選択：問題の解決の仕方を学ぶために、仲間のよいところや学んだことからよりよい方法を選択し、情報や技術を活用して、まずやってみる

城山小の約束

みんなが気持ちよく、安心できる言葉づかいで、気づき、考え、行動をする

「子供が」自己肯定感、集団の所属感の高まりから充実感を味わうために、「教師が」「やればできる!できる!」と励ましつつ、例示をして「それは、やらねば始まらない」と背中を押し、結果を受けて褒めることを基本姿勢とする

予測が困難な時代と到来と言われる2030年を生き抜くための力「自律」「対話」「選択」を高めることが本校教育活動のすべてがねらうところ。

これまでの日本型教育の実践とICTとを最適に組み合わせることが大切であり、学校教育の基盤的な道具としてICT機器の効果的な活用を進めていく。

目指す学校の姿を達成目標として、「何のために行うのか」「目標の実現に向かっているのか」を常に考えて、全てのベクトルをそれに向けていく。

本校教育活動を支える基盤づくり

【学校全体で支持的風土の醸成】

活動時の雰囲気

○肯定的な人間関係、情緒的開放 ○深い児童理解 ○人を馬鹿にする言動 やごまかそうとする態度はしっかりと指導する。

活動時の勢い

○マネジメント

- ・子どもの考えを聴く・認めることを基本とし、必要に応じて意図的・計画的に挙手や指名での発言を促す。
- ・可能な限り、本物に触れることができる場を仕組み、子供の驚き（「へえ、そうか、わかった」と子供の歓声を）を大切にする。

温かく、柔らかく、シンプルな学習規律

- 授業開始・終了時のあいさつの言葉、友達の発表への返しの言葉などの定型句を見直す。（「始めます」「終わります」……）
- 「おずかしいな、わからないことがある」とつぶやくことができるような約束事を工夫する。

学級・学年・代表委員会等で話し合う場の確保、子供のアイデアや取組につながる教師の例示

○禁止事項を多用せず、子供に話し合わせて約束事を決めて、それを守るよう仕向けていく。（自分たちで決めたことは守る）

【指導の最小単位を学年と考え、同学年、低・中・高・特別支援のまとまり、専科との協力で全ての子供を育てる（共創して協働する）】

同学年会、低・中・高のまとまりでの先を見通した打ち合わせを、情報交換を、特別支援学級担任との情報交換・共通理解を

○子供に関すること、指導上の悩み、指導の工夫・教材の工夫などの共有化を図る。

【学力向上と体力向上を両輪として、教科横断的なカリキュラム編成を基にして】（授業改善、ICTは必須の取組。）

子供が楽しさを感じる活動のアイデアを出し合う

- 体力向上は学力向上の土台⇒校内のプレイパーク化 ○体力向上⇒気力・やる気の向上・心の安定⇒粘り強さ・意欲の向上⇒学力向上
- 学年・学級活動・学校行事・毎月の平和祈念式・総合的な学習など体験的な学習と関連させた問題解決的な学習としての道徳の展開を

城山小学校の教職員として

【「いいね行動」が表れるように、正の強化をねらった指導を基本として】

同学年、低・中・高・特別支援のまとまり、専科との協力を基に、共通理解を図り、方法を工夫する

- ◎「いいね行動」をしたときに「すぐに」褒める、ほんの少しでもできたら褒める。（25%ルール⇒発達の段階に応じながら子供に求め過ぎないように）
- 「よくないね行動」をしたときこそ相談をして対応の工夫をする。（子供の行動の背景を受け止め、子供を追い込むことがないように）
- 「あぶないよ行動」をしたときは、やめるように指示をする。（小学校の子供の発達の段階に応じて、ならぬことはならぬ!）

職員室の支持的風土の醸成（不祥事発生とともに防ぐことにつながる）、協力して、安全・安心については確実に配慮する

- 「すべての子供が」をキーワードとして、互いに思いを語り合い、「ねらいは何か」「なぜそれを行うのか」に立ち戻り考えをめぐらせることができるよう、アイデアを出し合う（仲間との合意形成を図り、目指す学校の姿の達成に向けた取組を共に行う。子供のここの話題は配慮を。）
- 生活科や総合的な学習、特別活動を中心としながら、場面を捉えて探究的な学習を仕組み、本物に触れる機会を計画的につくり、学力・体力向上、キャリア教育につなげていく。（子供が夢や憧れを選択できるように仕向けていく）

【働き方改革の具現化を図る】（視点は、やめる、簡単に、まねをして、してもらう、一緒に）

超過勤務の縮減

- 仕事の見通しを持ち、計画的にメリハリをつけて業務に取り組む。（協力・分担しながら）
- ねらいを確認しつつ、質を維持しながら、効率的に実施できる方法を企画し、できるものから改善していく。（前例踏襲、思い込みの見直しを。）

ICTの活用

- 学習指導はもちろんのこと、校務にも積極的に取り入れていく。（学習での効果的活用、持ち帰りによる宿題の設定、C4thの活用、Googleの活用）
- Qubena（キュービナ）・MEXTBT（メグビット）の積極的活用推進。（学びの個別最適化につながる家庭学習や習熟学習の工夫）